



### 「生きものの人・共生の里を考えるシンポジウム」に参加

11月19日、20日に山口県周南市で開催された「生きものの人・共生の里を考えるシンポジウム」に、佐渡kids生きもの調査隊の4名が参加しました。

このシンポジウムは、大型希少鳥類をシンボルに、保護活動や人と自然の共生に取り組む4市（山口県周南市のナベヅル、鹿児島県出水市の万羽ヅル、兵庫県豊岡市のコウノトリ、佐渡市のトキ）が、持ち回りで毎年開催し情報交換などを行うもので、今年で5回目となりました。

19日は、4市の子どもたちのほかに、ラムサール湿地の保護活動に取り組む日本の4地区と韓国の2地区の子ども代表が集まり、交流会が行われました。ここでは、開催地「八代の里の宝探し」をテーマに意見を出し合い、グループに分かれて宝の絵を作成しました。

20日に開かれた子どもシンポジウムでは、各地の子どもたちが自分たちの活動内容について発表しました。佐渡市の代表は、トキのこと、エサと環境のこと、そして無農薬の米作りを通して生きもの調査やトキが住みやすい環境を考えながら活動を行っていることなどを発表しました。そして、前日に作成した宝の絵

について子どもたちが討論し、1枚のポスターを完成させ周南市長へ贈呈しました。

このほかに、動物の声帯模写を得意とする4代目・江戸屋猫八さんを招いての特別公演も開かれ、鳴きまねを通じて「自然の大切さ」を語っていただきました。

なお、来年度のシンポジウムは佐渡市で開催される予定です。



佐渡kids生きもの調査隊による発表の様子

◆市役所農林水産課 生物多様性推進室  
トキ政策係（第2庁舎）  
☎63-3761



## 世界遺産登録に向けて

### 佐渡金銀山絵巻をひもとく(5)

#### ―坑道を守る―

鉱石を採掘するため、坑道を掘り進むことは、崩落や落石の危険と隣り合わせです。それを防ぐため、「山留」といって留木（支柱）を用いた安全対策の普請が行われていました。留木には、水に強く、腐りにくい栗・榎の木が使われていました。

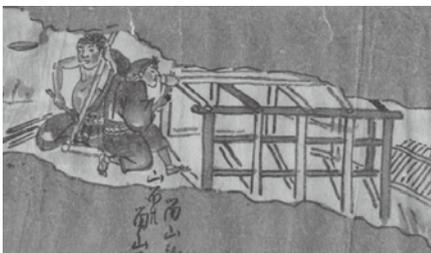
『ひとりあるき』という幕末の鉱山技術書によると、留木には「壹丈五尺（長壹丈五尺、廻り壹尺七寸）、大壹丈（長壹丈、廻り壹尺七寸）、大式間（長式間、廻り壹尺六寸）、九尺（長九尺、廻り壹尺）、矢木（長六尺、廻り壹尺四寸）」があります。これらを使って、柱を立てることを「股木」、天井の崩落

を押さえることを「押し木」、留木を横に使うことを「かお」、柱が動かないように固定することを「間切張」と呼んだとあります。

山留の工法については、「佐渡銀山往時之稼行絵巻」では「押しえ留」と「手掌留」が描かれています。

単に山留とも呼ばれた山留大工は、このほか坑内の栈道やはしごを作るなど、坑道保全の全般にわたる技術者であるため、奉行所の直轄となっており、一か月給米三斗、銭一貫三百文を給付されていました。絵巻に描かれている山留大工が、上級職がかぶる、コヨリで編んだ「天辺」というかぶりものをかぶっていることから、その待遇がうかがえます。

◆市役所世界遺産推進課（金井コミュニティセンター内） ☎63-5136



山留の普請場所



押さえ留



合掌留



「天辺（矢印）」をかぶる山留大工



留木を作る山留大工たち

